

平成28年度 第3回 尼崎市総合教育会議 議事録

【日 時】 平成29年2月13日(月) 午後4時30分～6時

【場 所】 尼崎市役所 4-1会議室

【出席者】 尼崎市総合教育会議構成員

稲村 和美	市長/座長
徳田 耕造	教育長
濱田 英世	教育委員
仲島 正教	教育委員
磯田 雅司	教育委員
徳山 育弘	教育委員

関係者(尼崎市総合教育会議設置要綱第5条)

森山 敏夫	副市長
高見 善巳	教育次長
西川 嘉彦	教育次長
中浦 法善	企画財政局長

【事務局】 企画財政局 ひと咲き施策推進担当(吉田部長)ほか

【資 料】 ・次第
・資料1 旧聖トマス大学の「あまがさき・ひと咲きプラザ」としての活用について
・資料2 あまがさき・ひと咲きプラザ配置図
・資料3 「みんなの尼崎大学」についての考え方(素案)について

【次 第】 開 会
1 旧聖トマス大学の「あまがさき・ひと咲きプラザ」としての活用について
2 「みんなの尼崎大学」についての考え方(素案)について
閉 会

【議 事】 (敬称略)

事務局 (資料説明)

事務局 第1回目の総合教育会議にて、教育委員の皆様から研究機関に対するご意見をいただきました。例えば、情報の取扱いには注意が必要であるというご意見をいただく中、個人情報取扱いにつきましては、コンプライアンス上しっかりと対応するべく、統計的に処理し、個人が特定されないよう万全の措置をとり、基本方針を定めるなど法令順守を徹底したいと考えています。

また、学校に資料の提出だけを求めて、教員が資料作りに追われるケースについてご心配の声がありました。これにつきましては、ひと咲きタワーの10階に新たに配置する事務職員が資料やデータの加工等を行うことで、教員の負担が増

えないようにしたいと考えています。さらに、客観的なデータも大事だが、現場主義の学識経験者が来てくれるといいというご意見もいただく中、現在考えている発達障害関係の研究の主席研究員は、これまでも現場の教員に関わっておられる関西国際大学の先生に打診しており、来週には1回目の意見交換を行うこととしてしています。

一方でデータを分析し、中長期的な効果測定を行い、教育政策に活かすという観点も必要ですので、そうした分野の方にも打診しています。引き続き、現場の教員の声も聴きながら取組を進めたいと考えています。

稲村 みんなの尼崎大学は4月の開学を目指していますが、形を決めてスタートするというよりは、今まで色々な立場で学びに関わってきた人達を繋げて形にしていく考え方ですので、本日ご意見をいただくものの、何かを決めるという性質のものではありません。

一方で、あまがさき・ひと咲きプラザ(以下「ひと咲きプラザ」という。)は、来年度の主要事業として予算にも含まれていますので、本日、一定の合意形成ができればと思っています。それでは、ひと咲きプラザについて、ご意見をいただきたいと思います。

濱田 大学に関わる研究について、具体的なテーマや方法は決まっていますか。

事務局 現時点で考えているテーマは大きく4つあります。1つ目は、後伸びする力や子どもの非認知能力を高め、見える化するための研究。2つ目は、学力向上に向けた学力調査の分析。3つ目は発達障害のある子どもへの支援プログラムの実践的研究。4つ目は子どもを対象とした生活習慣病予防教育プログラムの効果測定です。詳細については、今後、現場の教員や研究者との意見交換の中で決めていきたいと考えています。

稲村 非認知能力というと堅く聞こえますが、これまで言ってきた後伸びする力の効果測定のため、データの蓄積を始めたいということです。市立幼稚園の一部の園長が研究への意欲を示してくれていますので、その方々を中心に、メンバーを増やすことを考えています。

2つ目のテーマは、これまで尼崎市独自の学力調査の分析を大阪大学にお願いしていましたが、大阪大学とは限らないんですね。

徳田 先日、大阪大学の先生に、研究への参加を依頼したところ、検討してみますというお返事でした。

稲村 これまでも学力調査をしてきましたが、同じ子どもを追いかけることは、十分ではありません。研究では、学力調査を活用し、何の影響で子ども達が伸びたか追いかける必要があります。

これまでは全国との差を一つの基準として重視してきましたが、全国的に学力が低下している時に全国平均あればいいという話ではないでしょうし、何点取ればその年代の発達として十分だと考えられるのかが大事だと思います。後の学年でのつまづきを減らすために、重要な事柄が理解できているかに着目するなどの分析が必要だと思います。

これは、国においても難しいようですが、尼崎市は独自にテストを実施していますので、この研究機関では今までの取組のバージョンアップを目指せばいいと思っています。

次に、中核市が児童相談所を設置する方が良いという流れがある中、完全な状態でないとしても、育ち館を今後への繋がりを意識したものにしたいと思っています。そこで、3つ目のテーマに関しては、発達障害の特性を理解して対応することで、才能が開く可能性もありますし、行政がユニバーサルな関わり方を広げる必要もありますので、育ち館との繋がりも併せて検討していきたいと思います。こちらは、前向きに検討いただいている関西国際大学の先生を中心に研究いただければと思います。

4つ目のテーマは、既に尼崎市のヘルスアップ担当が色々な先生と一緒に教材作りを進めていますので、それらを研究機関に移していければと考えています。

研究機関では、新しく何かを始めるといよりは、既存の取組を少しバージョンアップしていくことが、まず最初の取組だと思っています。

一定の配慮の下、データの活用について前向きにチャレンジすることで、色々な大学の先生が科研費の予算を持って研究に参画して下さるなど、市の予算も限られている中、お互いに予算を持ち寄ることができる点が大きいと思います。また、先生方が研究発表される中で尼崎市の取組が世間に広がることは良いことだと思っています。

また、大学の先生方に尼崎市の嘱託員の身分を兼任していただくことで、もともと個人情報分からないように加工したデータをお渡ししますが、データに関する責任や守秘義務などについて、法律上も明確に公務員と同等の責務を負っていただくように考えています。

礪田 研究者が参加すると、自分達のための研究になる例が多いと思いますが、1年目、2年目という区切りでの成果物について、事務局で想定しているスケジュールはありますか。

事務局 実態としては、中長期的な効果測定となる部分が多く、時間がかかる研究が主になると思います。ただ、おっしゃるように1年目、2年目で一定の成果が出せるものについては、研究員の方々と意見交換しながら示していきたいと考えており、今後詰めていきたいと思っています。

礪田 教育委員会としては、学校現場の教員にどういう形でフィードバックできるのが課題だと思っていますので、十分配慮いただきたいと思います。

事務局 心得ています。

濱田 育ち館の話になりますが、例えば、発達障害などの悩みを窓口相談できず、どうしたらいいのか分からない人が、私達が運営している場に来られることが多いので、そういう場とも連携し、連携先の情報も共有いただきたいです。気軽に相談に行くことができ、フィードバックできるようにしてほしいです。

稲村 行政だけでは上手くいかないところですので、気になることは集約できるようにしたいと思います。そのケースの情報が、必要に応じて関係者で共有できるような仕組みづくりを育ち館の核にしていきたいと思っています。

徳山 研究機関は重要で、進めていけば良いと思いますが、ひと咲きタワーの8階から10階の関係が良く分かりません。この4つの研究テーマを大学の先生方に研究してもらい、みんなの尼崎大学の講義に繋げるということですか。

事務局 8階は皆が交流する場とします。組織としては、9階と10階を所管する尼崎大学・学びと育ち研究担当という課を新設し、みんなの尼崎大学の事務局に加え、研究機関の担当職員の配置を考えています。10階の研究機関は、フロア名を研究所という呼称にし、研究機関の研究も、教員の自主研究グループの研究も、地域課題を行政と市民と一緒に考える研究もここでできればいいと思っています。研究機関の成果が学校現場にフィードバックされていくというイメージで、研究成果がみんなの尼崎大学の講義になることは、現時点では考えておりません。

徳山 イメージがうまく掴めていなかったのですが、上手くできればと思います。これから色々なことを検討すると思いますが、尼崎の良さを考えた時、学力テストの結果だけでなく、いい所を伸ばすための方法を検討いただければと思います。

稲村 その部分の見える化が必要です。そうしないと、点数しか見てももらえませんし、先生もそれで評価されます。偏差値の高い学校への進学が評価軸になっていることに対抗するためにも、そうした研究をしたいと思っています。尼崎の強みや、テストの点数だけいい子よりも生きる力を身に付けていること、生きる力を伸ばすために、何が必要かといったことを説明できないと、保護者は不安だと思っていますので、発信できるようにしたいと思います。

徳山 確かに、いいところのイメージは漠然とできていますが、評価基準という部分までには至っていません。

稲村 尼崎で子育てしてほしいと思っていますが、子どもの教育を理由に転出する人がいます。私自身、保護者として、尼崎の教育に不安はありませんが、そうでない方が周りにたくさんいます。皆さんも、感覚的には違うと感じながらも、焦れば焦るほど早期教育に走ったり、塾に頼ったりします。逆に、そういう家庭は経済的に逼迫していなかったり、子どもに色々と社会資本を伝達できる力があるからそうなるのかもしれませんが。子どもは家庭を選べませんので、どんな子どもにも社会関係資本を含めて、同じような環境に立てるようにしないとダメです。おそらく、子どもの成長には、社会教育との連携や色々な大人との出会い、芸術との触れ合いなど色々なことが必要だと思いますので、その辺りを見える化する研究も必要だと思います。

徳山 そのことを研究していくことは、是非頑張してほしいと思います。

稲村 教育委員の皆様も是非一緒に頑張りましょう。

礒田 市立尼崎高校や双星高校のようにスポーツの先進などシンボリックな学校になってきていることは、一定の成果だと思います。他市の子どもにも注目される中、尼崎の子どもが進学しづらくなる部分もありますが。

稲村 これからの時代、有名な大学を卒業しただけでは世間で通用しなくなっていくので、尼崎のまちが持つ育成力を押し出せるようになると思います。ただ、そのことは概念として説明しても、実感がなく、転出は止まりません。そこを上手く分かってもらえるようにしたいと思います。

徳田 先日お会いした大学の先生は、日本では経年変化の研究は少なく、中長期的に子どもの成長を追いかけたデータが蓄積されればいい研究ができると関心をお持ちでした。一方で、研究で4000人ほどのデータを繋ぐことは大変で、固有名詞をなくしてデータを繋ぐことは大変な作業だとおっしゃられていました。

稲村 最初に想定していなかったものを後から繋ごうとすると大変だと思いますが、あらかじめ番号を振るなど、必要に応じてではありますが、最初から色々なものを繋げられるようにしておけばできるのではないかと思います。

徳田 これからのものは可能でしょうが、過去のものは大変だということです。

稲村 そうかもしれません。

徳田 ある程度データの設計を考えて導入した方がいいとも話しておられました。

稲村 先ほどの礒田委員の発言のように、研究者は研究者としての興味と関心がありますので、それと現場が乖離しないようにすることが重要です。尼崎の子ども達の未来をより豊かにするために研究機関を作りますので、研究者の興味が満たされれば終わりということでは困ります。そこは常にチェックが必要です。過去、シンクタンクが現場と乖離する事例があったと聞いていますので、同じ轍を踏まないようにしたいと思います。

仲島 発達障害関係の研究の関西国際大学の先生とは誰ですか。

事務局 中尾先生です。

仲島 関西国際大学の中尾先生は発達障害について、神戸市の学校や養護学校の現場を経て実践をしてきた方です。しかも、1、2年先まで予定がある国際的にも人気の方です。よく協力の打診ができたと思いますし、すごくいい人選だと思います。発達障害について理論だけでなく、実践方法をよくご存じです。

中尾先生は、発達障害の特徴や幼児期の運動についての身体の成り立ちをご存じで、研究テーマの1つ目から3つ目が全部繋がります。後伸びする力についても、幼稚園の先生と連携すればすごくいい運動ができます。そのことが体育の授業に活かされれば、そこから変わってきて、学力が伸びていくというデータが今までにあるようです。どれくらい現場に来てくれるかは分かりませんが、この繋がりを大事にしてほしいと思います。

それから、尼崎の教員全員に配付されたユニバーサルデザインの授業の冊子が活用されているかどうかです。あの冊子は素晴らしいですが、活用していない先生が多くいるようです。ユニバーサルデザインの授業は、発達障害の子どもだけでなく、そうでない子どもにとっても、生きる授業になります。

稲 村 そうです。発達障害の子に接する時に気を付けた方がいいことは、どの子どもに対しても気を付けた方がいいことです。

仲 島 それが授業改善に繋がります。

稲 村 間違いありません。発達障害のペアレントトレーニングも同様で、全ての親が受けた方がいいと思います。

仲 島 中尾先生なら、例えば、PTA に対しても、間違ったことがあれば、そのことを指摘してもらえれば変わります。学びと育ち研究機関の主席研究員になった時に生きてくると思いますし、本当に誇れることだと思っています。

稲 村 いいテキストを作ってもらったのに活用されていないのは、教員が忙しすぎるということでしょうか。

仲 島 それもありますが、少し見たら分かることだと思っています。

稲 村 そのテキストを活用した授業の効果が見える化されれば、教員の意識も変わると思いますし、現場にとっても力強いことだと思っています。

濱 田 研修などで取り扱ってもらうなどしてはどうでしょうか。

仲 島 分かりやすい研修がたくさんあります。例えば、ベビーカーの使用法といった小さなことから、身体の面もよくご存じです。身体の発達学を兼ねていますから、PTA にも非常に人気がありますし、教員にも人気があります。海外経験も豊富です。素晴らしい人選で、これなら成功すると思います。できるだけたくさん現場に来てもらい、尼崎の研究機関の先生ということをアピールしていったらいいと思います。

稲 村 尼崎の名刺を色々なところで配っていただきたいと思っています。

事務局 中尾先生にお会いした時に、仲島委員のご意見と同じく、この3テーマを一緒にする必要があると、また、関西国際大学がある尼崎でこういう取組をすることが嬉しいとおっしゃっていただきました。本当に素晴らしい方だと感じました。

稲 村 世界にはばたかれる可能性のある人ですので、どこに行かれても尼崎に関わっていただけるようにしたいです。そういう熱意のある先生にご協力いただくためには、尼崎市の本気と、他ではできないことができる環境、人間関係や信頼関係の蓄積といったことが前提になると思いますので、ここで実績を作ることが必要です。

仲 島 尼崎の本気を見せれば、ご協力いただけると思います。

稲 村 研究機関については実際に進めていく中で、色々報告したいと思っています。来年度の目玉の一つとして大きく打ち出しますので、できれば研究者と教育長と一緒に記者会見ができればと思います。今のところ、記者の方も好意的に記事にしてくださっています。

濱 田 教育総合センターでも教員のグループが色々な研究をされていますので、現場と繋ぐことが必要です。

稲 村 教育総合センターの教員も自主的に授業力を高めるために色々なチャレンジをしていますので、それが実際にどういう効果に繋がっているかの実践を研究機関で補強し、効果の見える化をしようと思っています。生活習慣病や発達障害といった色々な施策が幅広いということで研究機関自体は市長部局になっていますが、総合教育会議の下に設置する形が望ましいと思っています。

事務局 総合教育会議の事務局が所管することを考えています。

稲 村 教育委員会と市長部局が常に一体になることが非常に大事だと思っており、それを担保するのがこの総合教育会議の場になりますので、色々なことを丁寧に報告し、ご意見を反映させながら進めたいと思っています。また、教育次長を2人

にしたように、教育総合センターにも市長部局併任の職員と教育職とお互いが風通し良く両方に関わることができるよう、人事面でも考えたいと思っています。

研究機関以外にも気になることがあればご意見をお願い致します。

濱田 青少年センターの機能は、学び館に入るのですか。

稲村 学び館と学生会館に入ります。青少年センターを活動拠点とする少年音楽隊は、他都市に例を見ない取組で、非常に人気も高く、国際交流にも貢献するなどの重要な役割を果たしてくれていますので、その練習場所等は確保できるように考えています。

ただ、居場所という観点では、市内1か所では足りず、色々なところに青少年が活躍できる場所が必要だと思っていますので、ここだけを居場所とせず、全市的に展開するように整理したいと思っています。

また、関連団体の事務所機能は引き続き考えていますが、青少年の教育に関わる団体やNPOは増えている中、既存のところだけでなく、色々な人達が集まることができればいいと思っています。

近年、青少年センターに必要な機能は弱くなっていると思っていましたが、毎年、実行委員会や企画委員会の子ども達が素晴らしい運営をしてくれています。

濱田 そういう拠点もここになるのでしょうか。

稲村 そうです。ただ、少年補導などは十分に議論が詰まっています。

濱田 図書館は市民に開放されるのでしょうか。

稲村 そうです。通常の図書館は静かな場所ですが、小さなお子様連れの方でも使えるような図書スペースを作れないかといったことも検討中です。

事務局 現在本を置いている図書館の2階部分を、子どもや子育ての本を中心に開架し、読み聞かせなどができるスペースも設けたいと思っています。3階は自習室として、音を遮断できるような整備を考えています。

磯田 それは図書館として活用されるのですか。

事務局 図書館ではなく、図書コーナーという位置付けを考えています。公民館の図書室のイメージです。

稲村 図書館はまだ完全には詰まっていないので、ご意見をいただきたいです。

仲島 子どもに特化したフロアにすると特色があっていいと思います。宣伝効果も高いと思いますし、いつも何か催しをしているなど、普通の図書館とは違うような感じになれば良いと思います。

稲村 建物が広いので、一角をそういう風にする事は可能だと思っています。

濱田 ベビーカーが入れるのかも考慮してほしいです。

事務局 階段がありますので、1階の部屋でも読み聞かせができるようにしたいと考えています。今、市内にはたくさんの読み聞かせボランティアグループがありますので、理想としては、毎日定時に、どこかのグループが読み聞かせをしているようなことをイメージしています。

稲村 いい活動は市内色々なところに展開されているべきだと思います。市内1か所では、結局は近隣の方が中心に利用され、遠い人には関係なくなってしまう。市内のセンター機能は、ある種の司令塔や、バックアップの機能をもつことが理想ですので、ここは本来、読み聞かせできる人を増やすといった機能が必要だと思いますが、青少年センターの運営に青少年が関わっていたように、色々な人達が色々な経験を積む拠点になればいいと思いますので、現場を持ってはいけないということではありません。

今の青少年センターにはファンが多いですが、関係のない人には関係のない施設になっていてもったいないですし、限られた予算の中で現場は工夫してくれていますが、老朽化で雨漏りもひどく、建物的に限界です。建物を見た時に子育てに力を入れているとは思ってもらえない状況です。それならば、新しくはありませんが、ひと咲きプラザの方が雰囲気良く、ふさわしいと思っています。

- 濱 田 看護学校は平成29年の4月から開校ですか。
- 稲 村 そうです。若い人達の就労支援的に結びつくようなことが将来的に出てくればいいと思っています。
- 徳 田 看護学校と周りの建物は交流があるのでしょうか。
- 稲 村 法令上の関係から、独立した形になっていますが、交流していけば良いと思いますし、市として繋げないともったいないです。看護学校には市外から来ている学生も多いようですが、奨学金制度もあります。看護学校の学生が発達障害のことなどで連携することはあると思いますし、その中で顔の見える関係ができ、色々な繋がりができることを期待しています。
- 徳 山 食堂等を作るのはどうですか。食堂は、お互いの顔が見えていいと思います。
- 稲 村 食堂は大事だと思います。大学当時にあった食堂と体育館は、ヨゼフ修道女会が購入されています。コンビニの誘致も予定していますし、皆で持ち寄りたり、打ち上げ等ができるよう飲食可能な場も必要だと思っています。
- また、青少年センターについては、体育館もグラウンドもない中、青少年センター機能を名乗るのはどうかという声もあります。
- グラウンドについては、様々な考え方がありますが、今のところは売却予定になっています。また、体育館は交渉の余地があるようです。
- 中 浦 体育館はかなり修繕を入れないと使えないようです。
- 稲 村 ひと咲きプラザでの取組が市民に伝わって行けば、理解は得られると思いますが、最初から多額の予算は理解されにくいと思いますので、少しずつ実績を作っていくと思っています。例えば、月1回色々な研究者に来てもらいカフェのような形で職員や教員など色々な人が集まって学ぶようなこともしていきたいと思っています。
- ひと咲きプラザに期待や関心を持っていただいている方は大勢いますので、協議会のようなものを作って進めるのがいいと思います。ゆくゆくは、尼崎にひと咲きプラザありと言われるようにしたいと思っています。
- 濱 田 よく、場所が不便と言われますがどうでしょうか。
- 中 浦 バスの本数は増やす予定です。
- 稲 村 教育・障害福祉センターも駅から近くはないですね。
- 濱 田 教員が学校の用事で来るにあたり、市の中心周辺ということだったのでは。
- 稲 村 大庄からひと咲きプラザに来るのは、心理的に遠く感じるのわかります。
- 濱 田 県の方をご案内した時には、平地の尼崎市の中でそんなことを言っただけとはいけないという話になり、そのことをPRしています。それでも不便と言われますので、バスの増便は有難いです。
- 稲 村 皆が集まらないといけませんので、交通の便は改善が必要だと思います。
- 仲 島 満車が多いと人は来ませんので、駐車場は十分な台数が必要です。
- 濱 田 阪急園田駅からの案内掲示が必要ではないでしょうか。
- 稲 村 看板などは必要だと思っています。ひと咲きプラザに集まる価値があると思っただけのように頑張りますので、引き続きよろしくお願い致します。
- それでは、議題2のみんなの尼崎大学について説明致します。
- 前回の報告から大きく変更した点はなく、本日までパブリックコメントを実施中です。直近のご報告としては、商店街が中心となった商学部の取組が行われます。みんなの尼崎大学は、まさにそういうイメージで、行政側で作ら込むのではなく、皆がこの枠組みを自由に使い、お互いに関心を持つことやPRできるのがいいです。
- 来年度の主要事業としてパブリックコメントを実施した際、学生証を渡すような入学式や、学割といった色々なアイデアをいただきました。また、このような新しい取組はいいが、既存のNPO等との繋がりが弱いので、今まで活動されていた方々を大事にしながら、本当の意味でのプラットフォームを目指すべきという

ご意見をいただきました。これは私達も課題と感じているところですので、意識的に繋がりを持ちたいと思っています。

みんなの尼崎大学では、色々な学びや企画を大学になぞらえる中で、お互いが見えやすくなり、繋がりやすくなるのがいいと思っています。

また、学びにアクセスしやすくする検索機能の充実に加え、実施前の周知だけでなく、事業報告がもっと必要だと思っています。参加できなかった人にも取組に関心を持ってもらえるように、発信強化に努め、さらにそれによって、新しい人達が参加しやすくなればと思います。

本日、今年度末で公民館指導者会が解散になるという報告を受けました。指導者が指導しなくなるのではなく、会の参加者が少なくなったので解散するという事でした。私からは、解散で終了ではなく、時代に合わせた形で、尼崎で活躍する色々な分野の人達が必要に応じて繋がるのがいいと思いますので、みんなの尼崎大学の講師として登録してもらいたいとリクエストをしました。

お互いの活躍を分かりやすく見える化することが大事で、そうしたことを通じて、地域の一部の施設だけで活動している人が、施設を越えて連携するようにしていくことが必要であると思っています。

新聞等で報道されていますが、ひと咲きまち咲き推進部を局に格上げし、平成29年度と平成30年度の2年を集中取組期間として、複数局に関わる案件の再編に向けて準備したいと思っています。核となる職員の育成を進めながら、ひと咲きプラザが完全に供用開始する平成31年度にコミュニティのあり方も発展的に再編できるように準備したいと思っています。その中で、地域振興のあり方、地域福祉、社会教育と市長部局のコミュニティ活動など、色々な議論を丁寧にする必要があると思っています。

イメージや実践が先がないのに、考え方だけで進めると上手くいきませんので、みんなの尼崎大学の取組を進める中で共有し、現時点では2年後の理想像はまだ決まってませんが、スタート時には理想像を決めるスケジュール感です。総合教育会議でも色々なご意見をいただきたいと思っています。シビックセンターような方向を検討していますが、進めていく中で判断できればと思っています。

濱 田 委員会の中でも話が出ましたが、公民館のあり方や職員のこと、公民館運営審議会や社会教育委員会議もありますので、一気にするのはではなく、色々と協議していったほうがいいです。

稲 村 皆さん、それぞれ、ご意見や思いがあると思いますが、今のままでいいとも思っていないのではないかと思います。

磯 田 ひと咲きタワーの話に戻りますが、9階の「市民の主体的な学びや活動が増え」という記載は公民館、「地域を支える人材の創出を目指す」というのは本来、社会教育主事が担う仕事です。今までの取組との兼ね合い、9階のあり方との違いを明確にする必要があります。今までの活動が否定されるのは違うと思います。

稲 村 もちろんです。本来的な機能を強めていくに当たって、その機能は公民館だけでなく、地域振興センターを含め場所がどこであっても、色々な人を知っており、繋ぐことができ、皆の学びを下支えすることを任務とした人が必要で、公民館にいるから自動的にそうなるわけでないと思います。今、公民館は、夜間等はシルバー人材センターの方が運営しており、再任用職員も多く、社会教育主事の力が十分に発揮されづらくなっていますので、その辺りの機能を公民館を含む色々な施設で、どう充実させていけるのかをこの2年間で調整する必要があると思っています。

磯 田 団体が解散されるという寂しい話も出ましたが、本来は後継者を育成するなど、団体が活動し続けるような仕組みを作っていくことが大切ですが、代が変わればなくなるという状況が公民館には多いです。公民館職員の中にも意識の高い方がたくさんおられ、例えば、商工会議所の会議にも来られる積極的な方もおら

れますので、その方々も含めて、機能などを強化するにはどうするか、そのためにはボトムアップが必要です。教育委員会としての手続きとして、公民館運営審議会、社会教育委員会議があるので、それらを通じて、どんどん声が聞こえてくるような形にしていだかないといけないと思います。

稲 村 予算も職員も限られていますので、教育委員会と市長部局が一緒になって、お互いに強化が必要なことは力を合わせるという考えです。

磯 田 この構想については賛同し、いいことだと思いますが、丁寧に進めていかないと、今まで活動していた人はどうなるのかという話もあります。

稲 村 理想の公民館を模索して頑張っている人達をいつまでも孤立無援にはしておけませんし、組織の力ではなく属人的で、その職員の異動で職場に力が残らないのでは困ります。求められている機能を頑張って持たしていこうという人の応援になります。何かを否定するつもりはありませんので、丁寧にしていきたいと思っています。頑張ってくださいしている方々に不安を生じさせているとすれば、説明が不十分な部分があるということです。

先日の改革改善発表会においても公民館の頑張りを拝見しました。

磯 田 地域学習館の閉館を踏まえて、各公民館のセンター機能としての強化を謳ったという前提をよく理解しておく必要があります。そこを一足飛びにこういう形になりますと、公民館を主体に活動されている方が不安に思われてはいけませんので、誤解のないような形で進めていかないといけないと思います。

稲 村 そこは丁寧にしつつ、2年で頑張りたいと思います。結論ありきで考えているわけではありませんが、お互いに限られた人材や資源をうまく活用することについてはご理解いただけると思っています。

公民館の機能は公民館以外でも発揮してほしいですし、それ以外の力も公民館にどんどん取り入れればよいと思っています。形から入るのではなく、実態的な交流が先だと思っていますし、お互いに実があると思わないといけませんので、そういう意味ではみんなの尼崎大学を実態を作るツールにしながら、取組を進める中で、必要に応じて組織を再編できればよいと思っています。

学社連携の取組をさらに進めるためには、学校教育と社会教育が教育委員会にある方がいいのか。一方で、協働本部という一つの枠組みができてくる中で、最新の状況を見ながら議論、協議が必要だと思っています。皆、した方がいいということで一致していると思いますので、やりやすいスタイルはその時に選んでいけばいいと思います。

今後、市長部局と教育委員会の橋渡しが前面になってくるということにおいて、総合教育会議の役割が非常に重要になることは間違いないと思います。今、教育委員会は意思決定機関ですが、それに比べて総合教育会議は少し意見交換会のようなになっていることもありますので、国の想定は分かりませんが、場合によっては、総合教育会議の役割と位置付けをもう少し踏み込んだ形にすることが必要になるかもしれません。ここで齟齬がないようにして、尼崎市のウリである連携の良さをしっかりと押し進めていくことが大事ですので、今後、場合によっては総合教育会議が毎月の開催になる可能性もあるかもしれません。

以 上